

社会科学習指導案

指導者 才谷 瑛一

- 1 日 時 平成 24 年 11 月 19 日 (月)
- 2 学 年 第 6 学年 2 組 26 名 [6 年 2 組教室]
- 3 単 元 名 新しい国, 平和な国へ ～未来を照らす復興の光～

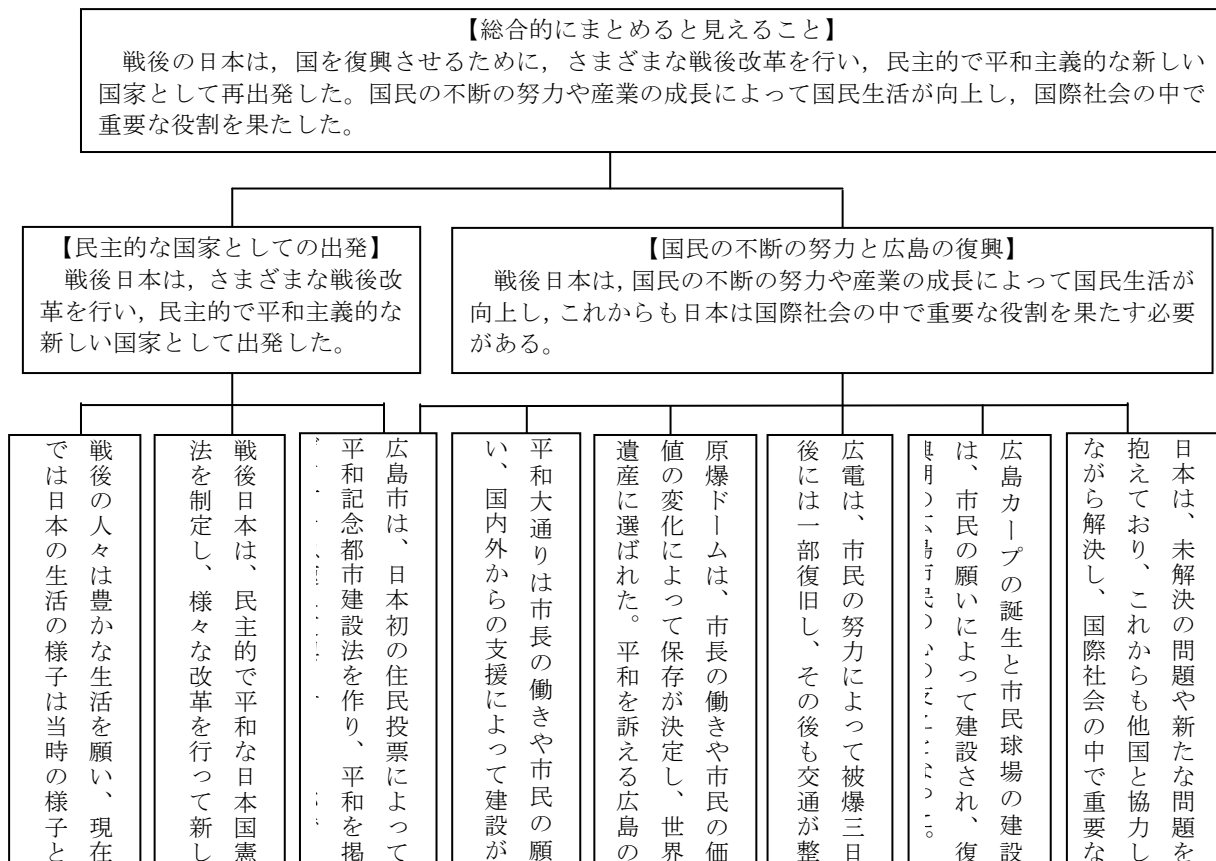
4 単元設定の理由

- 本単元は、小学校学習指導要領第 6 学年の目標と内容に基づき設定した。学習指導要領には以下のように示されている。

(1) 我が国の歴史上の主な事象について、人物の働きや代表的な文化遺産を中心に遺跡や文化財、資料などを活用して調べ、歴史を学ぶ意味を考えるようにするとともに、自分たちの生活の歴史的背景、我が国の歴史や先人の働きについて理解と関心を深めるようにする。

ケ 日華事変、我が国にかかわる第二次世界大戦、日本国憲法の制定、オリンピックの開催などについて調べ、戦後我が国は民主的な国家として出発し、国民生活が向上し国際

内容構造図



東日本大震災の発生から1年8ヶ月が経過した。被災者の不断の努力や国内外からの支援、行政の働きにより被災地の応急的な復興は進んでいる。しかし、防災対策や原発問題、少子高齢化問題、がれき撤去後の新たなまちづくりなど、早急に解決することが難しい深刻な問題が立ちほだかるため、復興は難航している。そんな中、被災者が心の支えになるものを生み出しながら地域を復興させている様子をよく見かける。

今から67年前、広島市をはじめ、全国120以上の都市が戦災し、まちは壊滅的な状態になった。しかし、日本は戦後から急速に復興し、やがて高度経済成長期をむかえ、豊かな生活を送ることができるようになったとともに、国際社会の中で重要な役割を果たすことができるようになった。これらの日本の復興を支えたかげには、日本国憲法の制定、行政の働き、人々の不断の努力、国内外からの支援があった。

本単元は広島市の戦後の復興の様子を扱う。世界初の被爆都市となった広島市は、戦前は41万人いた人口が戦後14万人まで減少し、「75年は、草木も生えないだろう」と言われていたが、わずか13年で戦前の水準に達し、広島復興大博覧会の開催を成功させることができた。復興に必要な資金に悩んだ広島市は、日本国憲法の特別法に基づき、日本で初めての住民投票を行い、広島平和記念都市建設法を作った。この法律によって広島のみちづくりが一気にスタートした。平和大通りの建設は、市長をはじめ、広島市民や国内外の多くの支援や協力があって完成した。供木運動によって平和大通りの建設は盛り上がり、県内から12万本以上の木の寄付や国内外から苗木の寄付が集まり、平和大通りは復興の象徴となった。また、平和大通りの北にある原爆ドームは20年近く放置されていたが、市民の声から保存への気運が高まり、1967年に保存工事が行われた。1996年には世界遺産に指定された。相生通りをはさんで原爆ドームの北側にはかつて広島市民球場があった。市民球場は戦後間もなく誕生した広島カープの本拠地として1957年に開設された。広島市街の中心部にある市民球場では、連日多くのファンが訪れ、広島カープを応援した。復興期の広島においてカープと市民球場の存在は市民にとって心の支えとなった。市民球場の照明の照らす光は広島復興の光となった。

平和記念都市建設法や平和大通り建設、原爆ドームの保存運動、広島カープと市民球場建設など広島市の復興とまちづくりを具体的に調べることを通して、戦後我が国は民主的な国家として出発し、国民の不断の努力によって国民生活が向上し、国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことが分かると考え、本単元を設定した。

- 本学級の多くの児童は社会科の授業が楽しいと感じており、単元ごとに歴史新聞を作って学習したことをまとめてきた。歴史新聞作りには多くの児童が意欲的に取り組み、教科書や資料集などから必要な情報を収集して新聞に載せながらまとめることができた。また、歴史人物カルタを通して楽しみながら歴史人物に親しんできた。しかし、学習課題について自分の考えを持ったり、教科書や資料集などから必要な情報を読み取って考えたりすることはできるものの、その考えは一面的であることが多い。社会的事象に対して歴史的条件、地理的条件、政治的条件など多面的に思考を形成するところまでは至っていない。

戦後の日本のイメージについて児童にアンケートしたところ、「戦争がなくなって平和になった」「平和を目指してがんばった」などと多くの児童が答えた。戦前と戦後の時代を比較して平

和をイメージする児童は多く、どのようにして日本が平和になっていったかそのきっかけに興味を持つ児童は多い。また、7月に行った宮城県気仙沼大島の子どもたちとの交流をきっかけに震災の復興に興味を示す児童も多い。

○ 指導に当たっては、次の手立てを行いながら単元を構成する。

① 学習の見通しを持たせる単元構成

学習の見通しを持たせるために広島市の復興をテーマにした単元を構成する。単元の導入では、戦後と現在の広島市の様子を比較させ、その違いから人々がどのような願いを持ち、復興に取り組んできたのか興味・関心を持たせて学習を展開する。

② 問題解決的な学習の充実

問題解決的な学習を充実させるために、平和記念都市建設法、平和大通りの建設、原爆ドームの保存運動、広島カープと市民球場など、人々の願いや努力が見えやすい事象を中心に扱い、学習を展開する。これらを具体的に調べる活動を進めていくことで、広島復興に関わった人々の願いについて考え、復興やまちづくりの様子について人物に寄り添いながら理解を深めさせる。人物に焦点を当てた学習を展開していくことで、調べたことと自分の考えとを結び付けさせ、自分の考えを表現しやすくする。

③ 広い視野から考える力の育成

社会的事象の意味をより広い視野から考える力を育成するために、「なぜ」という児童の問い大切にしたい授業を展開する。これまで学習してきた知識では説明することのできない事象を児童に提示し、資料を活用して自分の考えを見つけたくなるような学習課題を設定することで学習意欲を高め、児童一人一人に考えを持たせる。そして、小グループや学級全体での話し合い活動を通して自分の考えを表現させ、教師が児童の考えを整理して板書することで考えを広げたり、深めたりさせる。児童同士の学び合いを大切に、聞く態度を身につけさせたり、自分の考えをノートにまとめさせたりすることで、広い視野から考える力を育成する。

④ 学習のまとめ

これまで継続して取り組んできたように歴史新聞を作成して学習のまとめを行う。広島復興をテーマに、平和記念都市建設法、平和大通りの建設、原爆ドームの保存運動、広島カープと市民球場の4つの事象について関わった人物や社会に与えた影響などを自分の言葉で表現させることで学習したことをより確かに見つめさせる。完成した新聞は学級の児童同士で読み合い、感想を伝え合うことで学習への充実感を味わわせる。

5 研究主題との関わり

(1) 本学級では、思考力を育成するためにノートの書き方を指導してきた。児童自身に思考の変化をとらえやすくするために、ノートに書く内容は始めの感想、調べたこと（話し合ったこと）、まとめの感想の3段階に分けて書かせてきた。まとめの感想では、学習を通して自分の考えが増えた、変わった、深まった、のいずれかの言葉を使って書かせた。また、友達の名前を入れてまとめの感想を書かせることで児童同士の学び合いを大切にしてきた。少しずつではあるが、児童が多面的に思考を形成することができるようになっている。

(2) 本単元では、始めの感想を持たせるための資料、思考を深めるための資料を準備する。資料をもとに読み取ったことを小グループや学級全体で話し合うことで、多面的に思考を形成することができるようにする。本時では、資料をもとに復興の早い段階で市民球場を建設した理由について考えさせる。

6 単元の見目標

- 平和大通り建設、原爆ドームの保存運動、広島カープと広島市民球場など広島市の復興とまちづくりを通して、戦後、我が国が民主的な国家として出発し、国民の不断の努力によって国民生活が向上し、国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことがわかるとともに、平和で民主的な国家の一員として、これからの日本の課題やよりよい発展について考えようとする。
- 広島市の復興とまちづくりから学習問題を見だし、地図や年表、その他の資料を活用して調べたことをまとめるとともに、戦後、我が国が民主的な国家として出発し、国民の不断の努力によって国民生活が向上し、国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことや、平和で民主的な国家の一員として世界の人々とともに生きていくことの大切さについて思考・判断したことを表現する。

7 単元の評価規準

	社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用 の技能	社会的事象について の知識・理解
単元 の 評 価 規 準	○我が国の戦後の歩みに関心をもち、進んで調べようとするとともに、平和で民主的な国家の一員として、これからの日本の課題やよりよい発展について考えようとしている。	○我が国の戦後の歩みについて、学習問題や予想、学習計画を考え、表現するとともに、戦後、我が国が民主的な国家として出発し、国民の不断の努力によって国民生活が向上し、国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことや、平和で民主的な国家の一員として世界の人々とともに生きていくことの大切さについて思考・判断したことを、言語などで適切に表現している。	○日本国憲法の制定、平和大通り建設など、我が国の戦後の歩みについて、地図や年表、家族の話、その他の資料を活用して必要な情報を集めて読み取り、わかったことをまとめている。	○戦後、我が国が民主的な国家として出発し、国民の不断の努力によって国民生活が向上し、国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことが分かる。

学習活動における具体的評価規準	○戦後のまちの変化に興味・関心を持っている。 ○平和大通りや原爆ドーム、広島カーブなど広島の復興に関心を持っている。	○戦後の人々の願いをもとに復興計画を立てている。 ○平和大通り建設と供木運動への市民の意識が変化していったことを考えている。 ○原爆ドーム保存運動に対する人々の意識が変化していったことを考えている。 ○広島カーブ誕生と市民球場の建設から市民の願いや努力について考えている。	○広島市のまちの変化から戦後の市民の願いを見つけている。 ○資料からこれからの広島のみちづくりと果たすべき役割を見つけている。	○日本国憲法と平和記念都市建設法について調べ、二つの関係が分かる。 ○戦後の広電の歴史について調べ、広電を復旧させた願いが分かる。
-----------------	---	---	--	--

8 指導計画（全8時間）

次	学 習 活 動	評 価					評価規準	評価方法
		関	思	技	知			
一	全国でも大きな被害を受けたのに、なぜ広島は急速に復興できたのだろうか。							
	原爆投下直後の広島市と現在の広島市のまちの様子の違いから、戦後の人々の願いについて話し合う。(1)	○			○		○ 戦後のまちの変化に興味・関心を持っている。 ○ 広島市のまちの変化から戦後の市民の願いを見つけている。	ワークシート
	戦後の人々の願いをもとに復興計画を立てる。(1)		○			○ 戦後の人々の願いをもとに復興計画を立てている。	ワークシート	
二	戦災都市から広島はどのように復興したのだろうか。							
	日本国憲法と平和記念都市建設法について知る。(1)				○	○ 日本国憲法と平和記念都市建設法について調べ、二つの関係が分かる。	ワークシート	
	平和大通り建設と供木運動への市民の願いについて考える。(1)		○			○ 平和大通り建設と供木運動への市民の意識が変化していったことを考えている。	ワークシート	

	原爆ドーム保存運動と人々の願いについて考える。(1)		○			○ 原爆ドーム保存運動に対する人々の意識が変化していったことを考えている。	ワークシート
	広電について知る。(1)				○	○ 戦後の広電の歴史について調べ、広電を復旧させた願いが分かる。	ワークシート
	広島カープ誕生と市民球場の建設について考える。(1, 本時)		○			○ 広島カープ誕生と市民球場の建設から市民の願いや努力について考えている。	ワークシート
	広島の復興についてまとめよう。						
三	広島復興について新聞にまとめる。(1)	○			○	○ 平和大通りや原爆ドーム、広島カープなど広島復興に関心を持っている。 ○ これまで学習した資料を活用して新聞を作っている。	ワークシート

9 本時の展開

(1) 本時の目標

広島市民が戦後まもなく広島カープを誕生させたり市民球場を建設したりしたことから、復興期の広島市民の願いや努力について考え、表現する。

【社会的な思考・判断・表現】

(2) 観点別評価規準

○ 広島市民が広島カープを誕生させたり市民球場を建設したりした理由から、市民の生活や広島町の楽しみやにぎわいを生み出そうとしていたことを考え、表現している。

【社会的な思考・判断・表現】

(3) 本時のポイント

広島市民が広島カープを誕生させたり市民球場を建設したりした理由について話し合わせ、取り壊した市民球場のライトスタンドを残した広島市民の願いと関連付けて考えさせることで広島市民が復興期の広島市民の願いや努力を未来につなげていこうとする姿について考えさせる。

(4) 準備物

資料、パソコン、プロジェクタ

(5) 学習の展開

学習活動	指導上の留意事項	評価規準(評価方法)
1 これまでの学習で	○広島復興年表を見せながら、広島カープが戦	

<p>作成した広島復興年表を見る。</p> <p>2 本時のめあてを確認する。</p>	<p>後4年後という早い段階で誕生したことに気付かせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広島カープの誕生は、供木運動や原爆ドームの保存より早い。その8年後には新しい球場までできている。 	
---	--	--

広島のまちは復興の途中なのに、
なぜ広島カープを誕生させたり市民球場を建設したりしたのだろう。

<p>3 自分の考えを持つ。</p>	<p>○始めの感想をノートに書かせ、自分の考えを持たせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広島にプロ野球チームがなかったから。 ・広島のまちは、少しずつできてきたけど、まちにもっとにぎわいがしかったから。 ・普段の生活の中に楽しみを作りたかったから。 ・子どもたちの夢や目標を作りたかったから。 	
<p>4 広島カープ誕生や市民球場建設について知る。</p>	<p>○地元企業からの寄付や市民による募金があったことや球場建設に多くの市民が参加したこと、食費を削って入場料を作り出していたことなど複数の資料の中から市民の願いや努力について読み取らせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広島地元企業から2億円以上の寄付があった。 ・樽募金と呼ばれる市民による募金があった。 ・球場建設によって仕事を見つけ、生活していた。 ・応援に行く人の多くは、食費を削って入場料を払っていた。 ・カープの存在が子どもたちの夢や目標になった。 ・原爆ドームの向かい側、広島を中心に球場が完成した。 ・市民球場へみんなが応援に通い、日常の話題はカープの話題一色だった。 	

<p>5 広島カープを誕生させた理由や市民球場を建設した理由について話し合う。</p>	<p>○広島カープを誕生させた理由や市民球場を建設した理由を、社会背景を根拠にしながら話し合わせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロ野球チームを広島に作れば、厳しい生活をしている子どもたちの夢や目標になるから。 ・プロ野球チームを広島に作れば、市民が厳しい生活の中でも心を一つするものができるから。 ・球場が広島のまちの中心に建設されれば、市民が応援に行きやすくなり、市民の生活の励みになったりまちが盛り上がりやすくなるから。 ・楽しみの少ない時代に、生きるための楽しみを自分たちの力で生み出したかったから。 	
<p>6 旧市民球場のライトスタンドの写真を 見る。</p> <p>7 学習のまとめをする。</p>	<p>○旧市民球場のライトスタンドの写真を見せ、新球場は完成したが、広島市民は旧市民球場のことを忘れないようにしていることに気付かせる。</p> <p>○「他者視点」「自己モニター」を意識して、学習のふり返りをさせる。</p>	<p>○ 広島カープを誕生させたり市民球場を建設したりしたことや市民球場の一部を残した理由から、広島市民の復興への願いや努力について考え、表現している。 (ノート)</p>